

# 徳島県の活かしたい生態系リスト

令和4年1月

徳島県

## 目次

1	はじめに	1
2	生態系とは	2
3	「徳島県の活かしたい生態系」選定の流れ	2
3-1	生態系区分の考え方	2
3-2	選定基準	3
4	選定結果	4
4-1	「徳島県の活かしたい生態系」のリストと それらの分布	4
4-2	「徳島県の活かしたい生態系」を特徴づける 景観、生物群等	8
5	「徳島県の活かしたい生態系リスト」の活用	14
	(参考) 希少野生生物の整理	15

## 1 はじめに

徳島県は、西日本第二の高峰剣山など雄大な山岳地形を有する「剣山国定公園」や、ウミガメの産卵にも適した変化に富んだ海岸線を持つ「室戸阿南海岸国定公園」など、多様な自然環境に恵まれております。古来より、私たちはこの豊かな自然から多くの恩恵を受け、特色ある文化や地域資源を活かした産業などを育んできました。

このような自然豊かな環境と、そこに息づく多種多様な野生生物は、私たち県民はもとより、地球上に生きとし生けるもの全ての貴重な財産であり、未来に引き継いでいくべきかけがえのない宝であり、本県では「癒しの郷とくしまの実現」を目指し、平成30年10月に「生物多様性とくしま戦略2018-2023」を策定しました。

世界では、持続可能な開発目標（SDGs）が掲げられるとともに、国内では「気候変動適応法」が成立し、適応策に本格的に取り組むこととなり、本県では国に先駆けた「徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例（すだちくん未来の地球条例）」の施行による取組を充実させるなど、自然環境を取り巻く状況も大きく変化しています。

徳島県は「生物多様性とくしま戦略」で「生物多様性という地域資源を活かしたコンパクトな循環型社会の実現」を目標に掲げ、達成に向けた施策を進めています。「生物多様性とくしま戦略2018-2023」では、県民の財産として将来に引き継ぎ持続的に活用していくべき貴重な生態系を「とくしま生態系レッドリスト（仮称）」として公表することを重点プロジェクトの一つとしました。「徳島県の活かしたい生態系リスト」は、こうした背景のもとで策定されたものです。策定にあたっては、徳島県希少野生生物保護検討委員会に生態系の選定基準と手法を御検討いただきました。

市町村をはじめ、事業者、市民団体、県民の皆さまにおかれましては、貴重な生態系を資本とする地域づくりに、「徳島県の活かしたい生態系リスト」を御活用いただけます。

## 2 生態系とは

生態系とは、ある地域に住むすべての生物と、その地域内の非生物的環境（水分、地質、栄養塩等）からなるシステムです。そのシステムは、そこに生育・生息する生物同士が関係しあうことによって成り立っています。

生物の生育・生息環境は、日照・土壌・水分などのいろいろな無機的要素が複雑に絡み合い、さらに様々な分類群の生物が相互に影響し合って生育・生息しています。その相互関係は、食う-食われるの関係であったり、共生・寄生関係であったり、また、直接ではなく環境の変化を通しての間接的な影響を与える生物同士の関係であったり様々です。生態系は、食料や木材を供給してくれます。良質な生態系を持つ地域には、多くの人々が癒しを求めて訪れます。森林は雨を受け止めて河川への流出量を調整することで、また、湿原は溢れ出した河川水を貯留することで、暮らしの安全性を高めてくれます。生態系は人々が安心・安全な暮らしを行っていく上で欠かせない「インフラ」だと言えます。複雑で多様な関係性によって成り立っているインフラとしての生態系を、人間の手で新たに創り出すことは不可能です。そのため、生態系はそれぞれの地域に固有のインフラとして、その機能が将来にわたって発揮されるよう維持管理していく必要があるのです。

このような考えのもと、徳島の生態系を将来にわたって活用していく上で特に注意を払って維持管理していかなければならない生態系やそれを含む地域を抽出し、「徳島県の活かしたい生態系リスト」としてとりまとめました。

## 3 「徳島県の活かしたい生態系」選定の流れ

### 3-1 生態系区分の考え方

生態系の種類は、大きくは気温や降水量等の気候要因、地形・地質要因によって異なります。そして、一つの山塊全体を含む大規模な生態系として抽出することも、その大生態系を構成する森林や草原等の個別の小規模な生態系として抽出することもできます。岩角地や石灰岩・蛇紋岩地等、特殊な環境にのみ成立する生態系も存在します。このようなことから、「徳島県の活かしたい生態系」は、景観的な区分（景域）と広がり（大きさ）とを用いて、階層的に区分しながら抽出することとしました。



表 3-1 生態系区分の考え方

景域	スケール	備考
山地	大生態系	四国山地東部の自然度の高い森林とその周辺約 500m を囲んだエリア (1000km <sup>2</sup> 程度)
	中生態系	徳島県に特徴的な自然度の高い森林、あるいは特殊な地質の地域に現れる植生がまとまったエリア (概ね 4 km <sup>2</sup> 以上)
	小生態系	面積が 4 km <sup>2</sup> 以下の自然度の高い群落がみられるエリア
平地	大生態系	ため池の密度が高く、湿地的な環境が広く残されているエリア (概ね 100 km <sup>2</sup> )
	中生態系	1 km <sup>2</sup> 以上の湿地環境が残されたエリア
	小生態系	小規模な湿地環境及び平地に残された緑地がまとまったエリア (概ね 1 km <sup>2</sup> 以下)
河川	大生態系	徳島県における主要な河川とその流域
	中生態系	汽水域や干潟群、あるいは河川沿いにまとまった植生がみられるエリア (概ね 2 km <sup>2</sup> 以上)
	小生態系	汽水域や干潟群、あるいは河川沿いにまとまった植生がみられるエリア (概ね 1 km <sup>2</sup> 以下)
沿岸	大生態系	沿岸部および島嶼周辺の海域 (陸域より半径 5 km 圏内を含むエリア (概ね 25 km <sup>2</sup> 以上))
	中生態系	海岸植生や湿地等がまとまって見られるエリア (概ね 1 km <sup>2</sup> 以上)
	小生態系	湿地や砂浜等 (1 km <sup>2</sup> 以下)

### 3-2 選定基準

こうした生態系区分の方法に基づき、多様な野生生物が生育・生息し、次のいずれかの要件を満たす場（生態系）を抽出しました。

- ア 希少な野生生物が生育・生息する生態系
- イ 特殊な立地環境に生育・生息する種の生態系
- ウ 自然度が強く脆弱な生態系
- エ 文化的・景観的な価値が高い生態系

選定は以下のように進めました。

- 徳島県内で生物調査を行ってきている専門家へのヒアリングを行い、多様な野生生物が生育・生息し、今後、地域資源として活用を図っていくために保全管理が必要と思われる場所を抽出。

- 環境省による自然環境保全基礎調査植生調査による 1/25000 植生図および植生自然度による区分を参考に、生態系としての空間的な広がりを把握。
- 生態系の保全管理は、単一の生態系だけでは不十分で、隣接する連続した生態系も含めて保全管理することが重要であることから、連続性のある近隣の生態系も含めて一つのまとまりとして指定。
- 湿地（ため池や水田等を含む）や沿岸域など、周辺の連続した水域などの影響を受ける生態系については、水域の連続性を考慮。
- 小生態系のうち、希少種の盗掘等が発生する可能性があるものについては、具体的な種名は示さない。

## 4 選定結果

### 4-1 「徳島県の活かしたい生態系」のリストとそれらの分布

「徳島県の活かしたい生態系リスト」には大・中・小あわせて104のエリアを選定しました。

大生態系は17エリア選定し、剣山山系などの四国山地、吉野川や勝浦川、那賀川の水系などの流域、牟岐大島や竹ヶ島周辺域など島嶼・海域が含まれます。

中生態系は37エリア選定し、吉野川河口干潟、勝浦川河口干潟、那賀川河口干潟などの河口干潟や高丸山や高越山周辺域に残る自然林をエリアとする森林、海浜、里地、などが含まれます。

小生態系は50エリア選定し、干潟、海岸林、ため池、砂浜、湿地などが含まれます。

表 4-1 徳島県の活かしたい生態系

景域	大生態系		中生態系		小生態系		
	番号	名称	番号	名称	番号	名称	
山地	L01	四国山地東部	M01	剣山、三嶺、天狗塚、高の瀬、石立山周辺の自然林	S01	三嶺～天狗塚の稜線の風衝草原	
			M02	落合峠を中心とする自然林（冷温帯）	S02	矢筈山周辺の自然林	
			M03	轟ノ滝を中心とする自然林	S03	石堂山周辺の自然林	
			M04	大美谷ダム周辺の蛇紋岩地帯	S04	サガリハゲ山周辺の自然林	
			M05	高丸山・雲早山・高城山の自然林	S05	落合峠のササ原	
			M06	西又山を中心とする自然林（暖温帯）	S06	高丸山周辺の自然林	
			M07	亀谷山東側の自然林（暖温帯）	S07	雲早山周辺の自然林	
			M08	石立山周辺の石灰岩地帯	S08	山犬窟周辺の自然林	
			M09	太能寺山周辺の石灰岩地帯	S09	西三子山周辺の自然林	
			M10	黒沢温泉と周辺森林	S10	柴小屋山周辺の自然林	
	-	-	-	M11	高越山周辺の自然林	S11	栗研谷周辺の自然林
				M12	阿波市の自然林	S12	高城山周辺の自然林
				M13	城王山周辺の自然林	S13	水の口湿地周辺の自然林
				M14	西ヶ峯から瀬戸山周辺の自然林	S14	黒沢温泉
				M15	伊勢田川上流域の自然林	S15	寒峰中腹～和田集落一帯の里地里山及び中間温帯林の社叢群
				M16	八郎山周辺の自然林	S16	塚塚高原の草原
				M17	竜王山から大滝山周辺の自然林	S17	国見山周辺の自然林
				M18	野鹿池山から黒滝山周辺の自然林	S18	鶴足山の自然林
平地	L02	吉野川北岸のため池群	M19	鳴門市の水田・ハス田	S19	多美湿地及び周辺の林	
			-	-	S20	阿佐灰山の自然林	
			-	-	S21	雲辺寺周辺の自然林	
	L03	徳島・石井・佐那河内山麓のため池群	-	-	S22	大麻山周辺の自然林	
	L04	阿南ため池群	-	-	S23	大坂峠周辺の自然林	
	-	-	-	M20	小松島ため池群	S24	桃源洞周辺の石灰岩地帯
				M21	海部ため池群	-	-
				M22	四方原の水田及び水路網	-	-
				M23	大津田川周辺の水田・水路網	-	-
				-	-	S32	徳島市城山公園
-				-	-	-	
-				-	-	-	
河川	L05	吉野川	M24	吉野川汽水域・干潟群	-	-	
	L06	勝浦川	M25	勝浦川汽水域・干潟群	S33	國瀬川干潟・フンド	
	L07	那賀川	M26	那賀川汽水域・干潟群	-	-	
	L08	那賀川	M27	那賀川の渓流沿いの植物群落（中流）	S34	長安口ダム堰周辺	
	L09	桑野川	M28	桑野川汽水域・干潟群	-	-	
	L10	日和佐川・北河内川	-	-	S35	福井川干潟	
	L11	海部川・母川	-	-	-	-	
	-	-	-	M29	槽川	-	-
				M30	槽川汽水域・干潟群	S36	岡川
				M31	伊勢田川	-	-
				M32	大毛島の海岸植生（東部海岸）	-	-
-				-	-	-	
沿岸	L12	鳴門から小松島湾の沿岸域	-	-	S37	月見ヶ丘海岸の砂浜	
			-	-	S38	小松海岸の砂浜	
	L13	蒲生田岬沿岸	-	-	S39	大神子の海岸マツ林	
			-	-	S40	橘湾香地区干潟	
			-	-	S41	大湯干潟	
			-	-	S42	淡島海岸の砂浜	
	L14	穴喰浦から蒲生田岬の海岸線	M33	日和佐・由岐周辺海岸	S43	北の脇及び中林の海岸マツ林・砂浜	
			M34	那佐半島周辺の干潟、湿地、自然林	S44	大里海岸の海岸マツ林と砂浜	
			M35	蒲生田海岸の湿地群及び周辺の林	S45	大浜海岸の砂浜	
			-	-	-	-	
			-	-	S46	蒲生田海岸の砂浜	
			-	-	S47	奥浦輪浦小島	
			-	-	S48	海老ヶ池周辺里地	
L15	伊島、棚子島とその周辺海域	-	-	S49	阿南市伊島町の湿地		
L16	出羽島、牟岐大島、津島、小津島とその周辺海	-	-	-	-		
L17	竹ヶ島と周辺島嶼およびその周辺海域	-	-	-	-		
-	-	-	M36	大毛島の海岸線と陸域（ウチノ海）	-	-	
			M37	島田島の湿地群	-	-	
-	-	-	-	-	S50	出島野島園周辺湿地群	

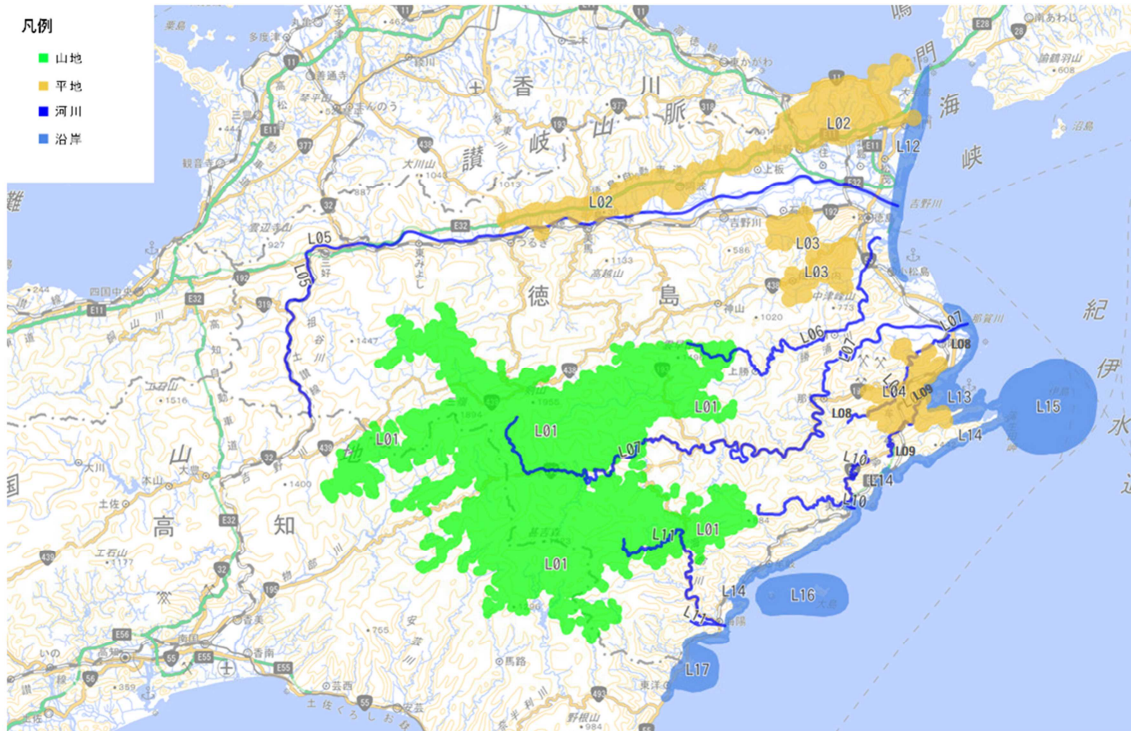


图1 大生態系位置

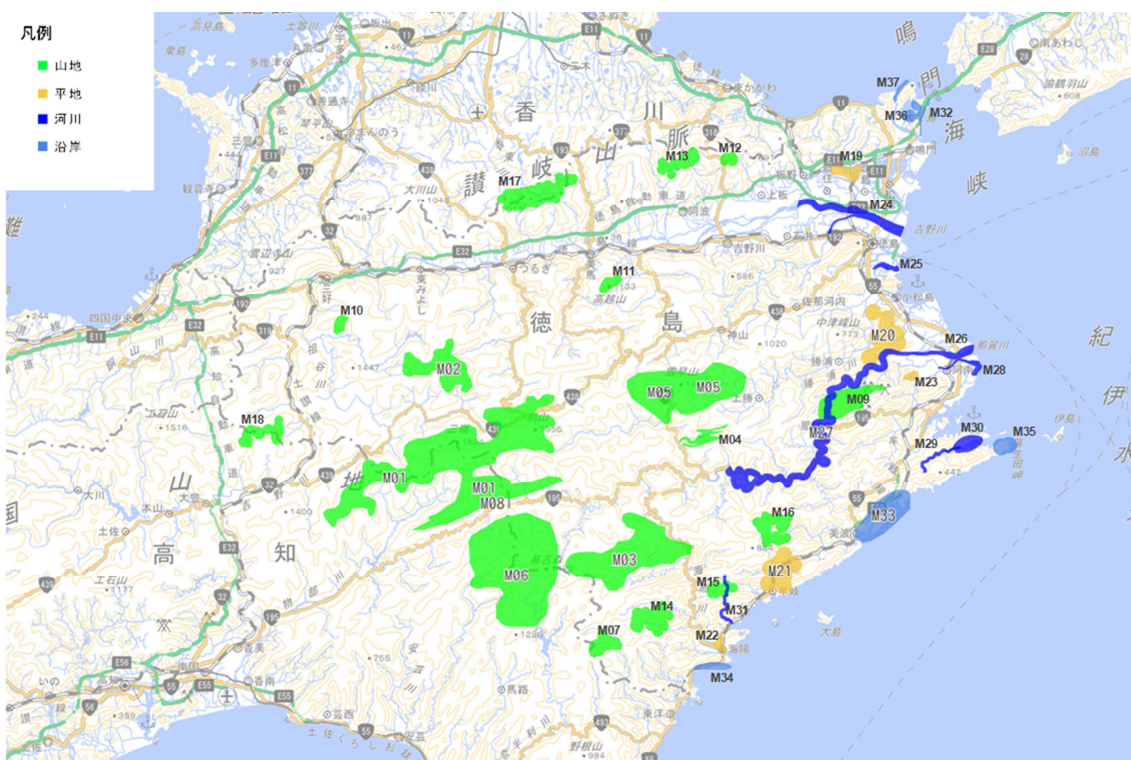


图2 中生態系位置图



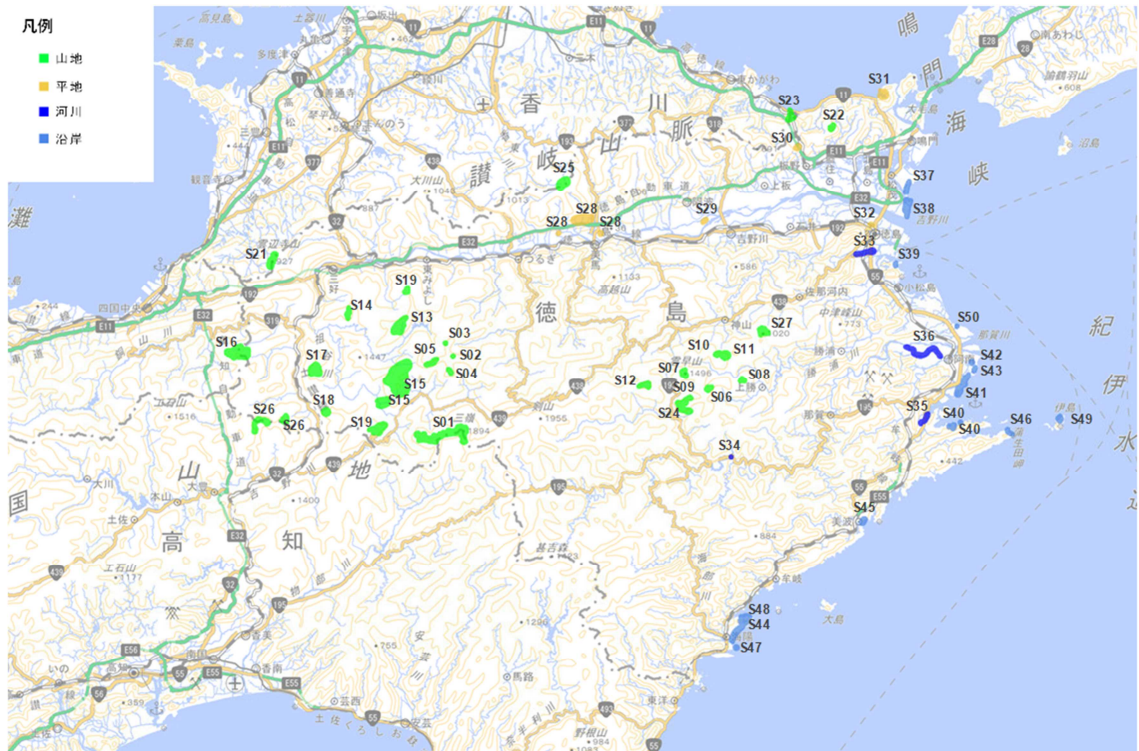


图3 小生態系位置图

## 4-2 「徳島県の活かしたい生態系」を特徴づける景観、生物群等

景域	番号	名称	選定理由	代表的な景観(群落)	希少種	備考	面積 (knf)
山地	L01	四国山地東部	ア、エ		アカエゾゼミ、エゾゼミ、キュウシュウエゾゼミ、コエゾゼミ、ツマジロウラジャノメ、ベニモンカラスシジミなど、ミヤマオオベソマイマイ、ツルギサンマイマイ、ツキノワグマ、クロホオヒゲコウモリ、モリアブラコウモリ、ニホンカモシカ、ヤマネ、クマタカ、オオタカ、ヤイロチョウ、コノハズク、キレンゲショウマ、ハクサンシャクナゲ、シコクシラベ		1098.7
山地	M01	剣山、三嶺、天狗塚、高の瀬、石立山周辺の自然林	ア、ウ、エ		アカエゾゼミ、エゾゼミ、キュウシュウエゾゼミ、コエゾゼミ、ツマジロウラジャノメ、ベニモンカラスシジミなど	国定公園	156.8
山地	M02	落合峠を中心とする自然林(冷温帯)	ア、ウ、エ		シータテハ、ウスバアゲハ、キュウシュウエゾゼミ、エゾゼミ、コエゾゼミ、ツルギミツバツツジ	国定公園	26.8
山地	M03	轟ノ滝を中心とする自然林	ア、ウ、エ		ルーミスシジミ、ヒサマツミドリシジミなど、クマタカ、タキユリ		66.7
山地	M04	大美谷ダム周辺の蛇紋岩地帯	ア、イ		ジンリョウユリ、アスナロ		5.1
山地	M05	高丸山-雲早山-高城山の自然林(冷温帯)	ア、ウ、エ		ブナ、ニシキスジラクダムシ		69.9
山地	M06	西又山を中心とする自然林(暖温帯)	ア、ウ、エ		イチイ		121.4
山地	M07	亀谷山東側の自然林(暖温帯)	ア、ウ、エ				8.1
山地	M08	石立山周辺の石灰岩地帯	ア、ウ、エ		ミヤマオオベソマイマイ、ケショウマイマイ、アツブタムシオイ、インダテクサタチバナ		25.2
山地	M09	太龍寺山周辺の石灰岩地帯	ア、イ、エ		アナムシオイ、クチキレムシオイ、モリサキオオベソマイマイ、洞窟性・地下浅層性の甲虫類、ゴマギ		19.9
山地	M10	黒沢湿原と周辺森林	ア、イ、エ		オオコオイムシ、オオウラギンスジヒョウモン、オオルリボシヤンマなど、		2.8
山地	M11	高越山周辺の自然林	ア、ウ、エ	アラカシ群落、シラキーブナ群集			3.7
山地	M12	阿波市の自然林	ア、イ	ウバメガシ群落(常緑広葉樹林)			3.0
山地	M13	城王山周辺の自然林	ア、ウ	イロハモミジ-ケヤキ群集、イヌシデ-アカシデ群落(VI)、コジイ群落			9.7
山地	M14	西ヶ峯から瀬戸山周辺の自然林	ア、ウ	モミ群落(VI)			15.4
山地	M15	伊勢田川上流域の自然林	ア、ウ	モミ群落(VI)、ツガ群落			6.2

山地	M16	八郎山周辺の自然林	ア、ウ	モミ群落 (V I)			14.4
山地	M17	竜王山から大滝山周辺の自然林	ア、ウ、エ	イロハモミジ-ケヤキ群落、モミ群落 (V I)、アラカシ群落			24.8
山地	M18	野鹿池山から黒滝山周辺の自然林	ア、ウ	シラキー-ブナ群落			10.8
山地	S01	三嶺~天狗塚の稜線の風衝草原	ア、ウ		コメツツジ、ミヤマクマザサ	国指定天然記念物	3.5
山地	S02	矢筈山周辺の自然林	ア、ウ	ササ群落、ウラジロモミ群落	ニセツクシアザミ、イシダテクサタチバナ		0.0
山地	S03	石堂山周辺の自然林	ア、ウ	ウラジロモミ群落	ミヤマザクラ、タカネオトギリ、ハクサンシャジン		0.0
山地	S04	サガリハゲ山周辺の自然林	ア、ウ	ウラジロモミ群落	ウラジロモミ		0.0
山地	S05	落合峠のササ原	ア、ウ、エ	ササ群落	ツルギミツバツツジ	国定公園	0.2
山地	S06	高丸山周辺の自然林	ア、ウ、エ	シラキー-ブナ群落	ブナ、ニシキスジラクダムシ	特別鳥獣保護区、自然環境保全地域	0.2
山地	S07	雲早山周辺の自然林	ア、ウ、エ	シラキー-ブナ群落	ブナ		0.3
山地	S08	山犬嶽周辺の自然林	ア、エ	シイ-カシ二次林	コケ群落		0.1
山地	S09	西三子山周辺の自然林	ア、ウ、エ	ブナーミズナラ群落			0.1
山地	S10	柴小屋山周辺の自然林	ア、ウ、エ	ブナーミズナラ群落	ブナ		0.2
山地	S11	薬研谷周辺の自然林	ア、エ		アケボノツツジ		0.5
山地	S12	高城山周辺の自然林	ア、ウ、エ				0.2
山地	S13	水の口湿地及び周辺の自然林	ア、エ		オタルスゲ		1.6
山地	S14	黒沢湿原	ア、イ、エ		ヒツジグサ、オオコオイムシ、オオウラギンスジヒョウモン、オオルリボシヤンマなど	徳島県指定天然記念物 (一部)	0.1
山地	S15	寒峰中腹~和田集落一帯の里地里山及び中間温帯林の社叢群	ア、エ				1.0
山地	S16	塩塚高原の草原	ア、エ	ススキ草地	ヒョウモンチョウ類、草原性の昆虫、モリアザミ		2.7
山地	S17	国見山周辺の自然林	ア、ウ	ヤハズアジサイ-サワグルミ群落、シラキー-ブナ群落			1.4
山地	S18	鶏足山の自然林	ア、ウ				0.3
山地	S19	多美湿地及び周辺の林	ア、イ、エ		オタルスゲ		0.2
山地	S20	阿佐尻山の自然林	ア、ウ		ヤマシャクヤク		0.9

山地	S21	雲辺寺周辺の自然林	ア、 ウ、 エ	モミ群落	キリシマミドリシジミ、エゾゼミ		0.8
山地	S22	大麻山周辺の自然林	ア、 ウ、 エ	アカガシ群落	アカガシ、カインサササドウダン		0.2
山地	S23	大坂峠周辺の自然林	ア、 エ		ナンカイアオイ		0.3
山地	S24	桃源洞周辺の石灰岩地帯	ア、 イ、 エ		トウゲムシオイ、ケショウマイマイ、洞窟性・地下浅層性の甲虫類		0.2
山地	S25	大滝山山頂の自然林	ア、 ウ、 エ	イロハモミジ・ケヤキ群落、ブナ・ミズナラ群落	ミドリシジミ類やエゾゼミなどの昆虫類、オオタチツボスミレ、ワタリスゲ		1.1
山地	S26	野鹿池山山頂の湿地及び周辺の自然林	ア、 イ、 エ	ブナなどがあり、樹林の下に湿地がある	エゾゼミ、ミドリシジミ類	自然環境保全地域	0.5
山地	S27	旭ヶ丸周辺の自然林	ア、 ウ		ヤマシャクヤク	希少野生生物保護区	0.5
平地	L02	吉野川北岸のため池群	ア、 エ		アサザ、ウキシバ		245.4
平地	L03	徳島・石井・佐那河内山麓のため池群	ア、 エ				78.7
平地	L04	阿南ため池群	ア、 エ				74.6
平地	M19	鳴門市の水田・ハス田	ア、 エ		コウノトリ、アズマツメクサ、ミズアオイ、オオアブノメ、カワバタモロコ、塩田地区の水生植物	徳島県鳴門コウノトリ鳥獣保護区	5.3
平地	M20	小松島ため池群	ア、 エ				23.1
平地	M21	海部ため池群	ア、 エ				19.8
平地	M22	四方原の水田及び水路網	ア、 エ	湿生植物群落	コウホネ類、ミクリ類ほか		2.1
平地	M23	大津田川周辺の水田・水路網	ア、 エ	湿生植物群落	オグラコウホネ	環境省日本の湿地500	1.6
平地	S28	脇町北部のため池群	ア、 エ		ミクリ、ヒシ		0.1
平地	S29	善入寺島のため池群	ア、 エ		オオミズムシ、イトアメンボ、ヒメイトアメンボ、オキナワイトアメンボなどの水生半翅類、ウマスゲ		0.1
平地	S30	ジョガマル池とその周辺の林	ア、 エ		オオミズムシ、コオイムシなどの水生昆虫、ノタヌキモ、サイコクヌカボ、ジュンサイ、シズイ		0.1
平地	S31	日出漁港周辺里地	ア、 エ		ハマボウ、ボタンボウフウ		0.4
平地	S32	徳島市城山公園	ア、 エ		タムシ、ホルトノキ、バクチノキ	徳島市指定天然記念物	0.0
河川	L05	吉野川	ア、 エ		ナベヅル、アキザキヤツシロラン、イヌハギ、ミゾコウジュ、カワラサイコ		-
河川	L06	勝浦川	ア、 エ		フジバカマ、ナガエミクリ、ジャヤナギ		-
河川	L07	那賀川	ア、 エ		ナカガワノギク、シラン、キシツツジ		-
河川	L08	桑野川	ア、 エ		オヤニラミ、オニシャク、ミゾコウジュ		-
河川	L09	福井川	ア、 エ		オヤニラミほか、サイコクヌカボ、スズサイコ		-



河川	L10	日和佐川・北河内川	ア、 エ		ナガレホトケドジョウ、ゴマハゼ、 イドミミズハゼなど、シバナ、ナガボ テンツキ		-
河川	L11	海部川・母川	ア、 エ		シギ・チドリ・カモ類、スナヤツ メ、オオウナギほか、ミクリ、ハタベ カンガレイ、ツクシイバラ		-
河川	M24	吉野川汽水域・干潟群	ア、 ウ、 エ		シギ・チドリ類、カラシラサギ、ズ グロカモメ、ルイスハンミョウ、キ アシハナダカバチモドキ、タビラク チ、シオマネキ、ウモレベンケイガ ニ、クシテガニ、フタハビンノ、ヒ ロクチカノコ、クリイロコミミガ イ、ウモレマメガニ、ハナグモリガ イ、ヒナノズキン、カワアイ、アマ モ、コアマモ、イセウキヤガラ		13.7
河川	M25	勝浦川汽水域・干潟群	ア、 ウ、 エ		シギ・チドリ類、ハクセンシオマネ キ、シオマネキ、ウモレベンケイガ ニ、フジテガニ、ヘナタリ、カワア イ、フクド、ハマサジ、ウラギク		1.8
河川	M26	那賀川汽水域・干潟群	ア、 ウ、 エ		シギ・チドリ類、カジカ小卵型、タ ビラクチ、スナヨコバイ、オオヒョ ウタンゴムシ、クリイロコミミガ イ、フトヘナタリ、ツブカワザン ショウ、イヨカワザンショウ、クリ イロカワザンショウ、ヨシダカワザ ンショウ、シオマネキ、ハクセンシ オマネキ、ヒロクチカノコ、ウラギ ク、ハマサジ		3.8
河川	M27	那賀川の溪流沿いの植物群落（中流）	ア、 イ、 エ		ナカガワノギク、ナガバシャジン、 イワバノギク		43.4
河川	M28	桑野川汽水域・干潟群	ア、 イ、 エ		コアマモ		2.4
河川	M29	椿川	ア、 イ、 エ		フクド、ハマサジ、ハマツナ		-
河川	M30	椿川汽水域・干潟群	ア、 イ、 エ		ハマサジ、フクド、ウラギク		5.7
河川	M31	伊勢田川	ア、 イ、 エ		イドミミズハゼ、ゴマハゼ、トビハ ゼ、ヒモハゼ、マサゴハゼ、シロウ オなど、ウラギク		-
河川	S33	園瀬川干潟・ワンド	ア、 イ、 エ		シオマネキ、ハクセンシオマネキ、 ヒロクチカノコ、ヒナタムシヤドリ カワザンショウ、クリイロカワザン ショウ、ツブカワザンショウ、フト ヘナタリ		0.4
河川	S34	長安口ダム堰周辺	ア		モモジロコウモリの育児同、ユビナ ガコウモリの秋の集合場所、オンド リの県内最大渡来地、ナカガワノギ ク、リンドウ		0.0
河川	S35	福井川干潟	ア、 イ、 エ		ヒロクチカノコ		0.2
河川	S36	岡川	ア、 エ		ミクリ、サイコクヒメコウホネ		0.8

沿岸	L12	鳴門から小松島湾の沿岸域	ア、 エ		コウボウムギ、コウボウシバ、アキ グミ、ハマニガナ、オニシバ、ケカ モノハシ		45.0
沿岸	L13	蒲生田岬沿岸	ア、 エ		シオギク	国定公園	50.3
沿岸	L14	穴喰浦から蒲生田岬の海岸線	ア、 エ		シオギク	国定公園	78.4
沿岸	L15	伊島、棚子島とその周辺海域	ア、 エ		ハチクマ、サシバ、オオミズムシ、 ホッケミズムシ、ゲンゴロウ類、タ ナゴジマスメアゴル、ササユリ、ヒ ゼンマユミ、ナタオレノキ		121.5
沿岸	L16	出羽島、牟岐大島、津島、小津島とその 周辺海域	ア、 エ		カンムリウミスズメ、ナタオレノ キ、シラタマモ		55.5
沿岸	L17	竹ヶ島と周辺島嶼およびその周辺海域	ア、 エ		エダミドリイシ、ピロードムラサ キ、オオウミヒルモ、タイキンギク	国定公園	26.9
沿岸	M32	大毛島の海岸植生（東部海岸）	ア、 エ		コウボウムギ、コウボウシバ、アキ グミ、ハマニガナ、オニシバ、ケカ モノハシ		1.2
沿岸	M33	日和佐・由岐周辺海岸	ア、 エ		ハマゴウ、ナミキソウ、コナミキ		24.7
沿岸	M34	那佐半島周辺の干潟、湿地、自然林	ア、 エ		エサキアメンボ、イボウミニナ、ヘ ナタリ、シオヤガイ、スダレハマグ リ		3.5
沿岸	M35	蒲生田海岸の湿地群及び周辺の林	ア、 イ、 エ		エサキアメンボ、オオクグ、ツクシ ナルコ		5.2
沿岸	M36	大毛島の海岸線と陸域（ウチノ海）	ア、 エ		ウラギク、ハマサジ		3.4
沿岸	M37	島田島の湿地群	ア、 イ、 エ		ネアカヨシヤンマ、ハネピロエフト ンボ、エソトンボ、コバノヒルムシ ロ、ミズオオバコ		1.3
沿岸	S37	月見ヶ丘海岸の砂浜	ア、 エ		ハマニガナ、トキワススキ、オカヒ ジキ、スナヨコバイ		0.2
沿岸	S38	小松海岸の砂浜	ア、 エ		ケカモノハシ、ピロードテンツキ、 ハタガヤ、オオヒョウタンゴミムシ		0.9
沿岸	S39	大神子の海岸マツ林	ア、 エ		ハルゼミ、ラクダムシ、クロマツ		0.0
沿岸	S40	橘湾香地区干潟	ア、 イ、 エ		フトヘナタリ、シオマネキ		0.1
沿岸	S41	大潟干潟	ア、 イ、 エ		シオマネキ、ハクセンシオマネキ、 ヒロクチカノコ、ヘナタリ、シオヤ ガイ、コアマモ、ハマウド、ハマ ボッサ、アイアシ		0.4
沿岸	S42	淡島海岸の砂浜	ア、 エ		外洋性の二枚貝類、フジノハナガ イ、ハマスナホリガニ、ハマボウフ ウ、ハマゴウ		0.1
沿岸	S43	北の脇及び中林の海岸マツ林・砂浜	ア、 エ		ハルゼミ、ラクダムシ、ハマゴウ、 ハマエンドウ		0.3
沿岸	S44	大里海岸の海岸マツ林と砂浜	ア、 エ		ハルゼミ、クロマツ、コナミキ、ア カウミガメの産卵地		0.6
沿岸	S45	大浜海岸の砂浜	ア、 エ		アカウミガメの産卵場所、ハマネナシ カズラ、ハマゴウ		0.2
沿岸	S46	蒲生田海岸の砂浜	ア、 エ		アカウミガメの産卵場所、コウボウシ バ、ハマアザミ、ハマエノコロ		0.0
沿岸	S47	奥浦瀬浦小島	ア、 エ		ヤッコソウ、オガタマノキ、ハチ ジョウイチゴ		0.1

沿岸	S48	海老ヶ池周辺里地	ア、 エ	ウバメガシ林	ウバメガシ、キシウナキリスゲ、 ハマナツメ、カンガレイ	海老ヶ池：現在は淡水化、蛇王神社のウバメガシ林：県指定天然記念物	0.9
沿岸	S49	阿南市伊島町の湿地	ア、 イ、 エ		オオミズムシ、ホッケミズムシ、ゲンゴロウ類		0.2
沿岸	S50	出島野鳥園周辺湿地群	ア、 イ、 エ		チュウヒ、サンカノゴイ、エサキアメンボ、リュウノヒゲモ、ハマサジ、ウラギク		0.0

## 5 「徳島県の活かしたい生態系リスト」の活用

「徳島県の活かしたい生態系リスト」では、生物の生息・生育空間のまとまりとして重要なエリアが選定されています。自然公園や自然環境保全地域等の、法律等に基づき指定されている場所付近以外にも、生態系にとって重要なエリアがあることを知ることで、隣接する連続した生態系も含めた生態系全体を地域づくりに活用し、また、保全に活かしていくことができます。

「生物多様性とくしま戦略 2018-2023」では、徳島県における生物多様性と生態系の現状と課題を以下のようにまとめています。「徳島県の活かしたい生態系リスト」を活用しながら、これら課題の解決に向けた取組を市町村、事業者、市民団体、県民の皆さまとともに展開していきます。

- 協働の取組を推進するためのマネジメント体制の構築（協働コーディネーターやマネジメントの役割の認識，人材配置，人材育成）
- 協働のマネジメントを担う拠点整備
- 民間セクターの取組を支援する協働ガイドラインの整備
- サプライチェーンや地域づくりと連携した協働の展開
- 協働による絶滅危惧種や外来生物の分布調査・モニタリングの体制の構築
- 多様な主体の協働による情報の収集，蓄積・管理，発信，共有の仕組みの整備
- 多様なボランティア活動を展開するための支援の仕組みづくり
- 協働事業を継続していくための資金確保の仕組みづくり
- 市民団体と教育機関との世代間の交流を含めた身近な自然を活用した環境教育やふれあいの場の創出

また、「生物多様性とくしま戦略 2018-2023」では、「自然エネルギーの利用を促進するための生物多様性や生態系の保全への配慮のあり方についての検討」を行っていくことを重点プロジェクト（4）として掲げています。社会的合意形成の観点から無用な対立を回避し、効率的かつ円滑に事業を進めていただくため、本リストも用いつつ、配慮方針のあり方を県として示していきます。

### (参考) 希少野生生物等の整理

今回、徳島県の活かしたい生態系リストの掲載した希少野生生物について、県及び国（環境省）のレッドリストへの指定状況についての情報を整理しました。

また、絶滅危惧種以外で当リストに掲載している生物を整理しました。

表1 哺乳類の整理

区分	科名	希少野生生物種	県版レッドリスト	環境省レッドリスト2020
哺乳類	クマ科	ツキノワグマ	絶滅危惧ⅠA類	地域個体群
哺乳類	ウシ科	ニホンカモシカ		地域個体群
哺乳類	ヒナコウモリ科	クロホオヒゲコウモリ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
哺乳類	ヒナコウモリ科	モリアブラコウモリ		絶滅危惧Ⅱ類

表2 鳥類の整理

区分	科名	希少野生生物種	県版レッドリスト	環境省レッドリスト2020
鳥類	サギ科	サンカノゴイ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧ⅠB類
鳥類	サギ科	カラシラサギ	絶滅危惧ⅠB類	準絶滅危惧
鳥類	コウノトリ科	コウノトリ		絶滅危惧ⅠA類
鳥類	カモ科	オシドリ	絶滅危惧Ⅱ類	情報不足
鳥類	タカ科	クマタカ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠB類
鳥類	タカ科	ハチクマ	絶滅危惧ⅠB類	準絶滅危惧
鳥類	タカ科	チュウヒ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠB類
鳥類	タカ科	オオタカ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
鳥類	タカ科	サシバ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
鳥類	カモメ科	ズグロカモメ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類
鳥類	ウミスズメ科	カンムリウミスズメ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
鳥類	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧ⅠB類
鳥類	ツル科	ナベヅル	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類
鳥類	フクロウ科	コノハズク	絶滅危惧ⅠB類	

表3 爬虫類の整理

区分	科名	希少野生生物種	県版レッドリスト	環境省レッドリスト2020
爬虫類	ウミガメ科	アカウミガメ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠB類

表4 汽水・淡水魚類の整理

区分	科名	希少野生生物種	県版レッドリスト	環境省レッドリスト 2020
汽水・淡水魚類	コイ科	カワバタモロコ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧ⅠB類
汽水・淡水魚類	ヤツメウナギ科	スナヤツメ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅱ類
汽水・淡水魚類	ウナギ科	オオウナギ	絶滅危惧Ⅱ類	
汽水・淡水魚類	ドジョウ科	ナガレホトケドジョウ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠB類
汽水・淡水魚類	カジカ科	カジカ小卵型	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧ⅠB類
汽水・淡水魚類	ケツギョ科	オヤニラミ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧ⅠB類
汽水・淡水魚類	ハゼ科	シロウオ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類
汽水・淡水魚類	ハゼ科	タビラクチ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類
汽水・淡水魚類	ハゼ科	トビハゼ	絶滅危惧ⅠB類	準絶滅危惧
汽水・淡水魚類	ハゼ科	ゴマハゼ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
汽水・淡水魚類	ハゼ科	マサゴハゼ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
汽水・淡水魚類	ハゼ科	イドミズハゼ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
汽水・淡水魚類	ハゼ科	ヒモハゼ	準絶滅危惧	準絶滅危惧

表5 昆虫類の整理

区分	科名	希少野生生物種	県版レッドリスト	環境省レッドリスト 2020
昆虫類	コオイムシ科	オオコオイムシ	絶滅危惧Ⅱ類	
昆虫類	コオイムシ科	コオイムシ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
昆虫類	ハンミョウ科	ルイスハンミョウ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠB類
昆虫類	オサムシ科	オオヒョウタンゴミムシ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
昆虫類	ゲンゴロウ科	ゲンゴロウ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅱ類
昆虫類	ジャノメチョウ科	ツマジロウラジャノメ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅱ類
昆虫類	シジミチョウ科	ルーミスシジミ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類
昆虫類	シジミチョウ科	ベニモンカラスシジミ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
昆虫類	シジミチョウ科	ヒサマツミドリシジミ	準絶滅危惧	
昆虫類	タテハチョウ科	シータテハ	絶滅危惧ⅠB類	
昆虫類	タテハチョウ科	オオウラギンスジヒョウモン	絶滅危惧Ⅱ類	
昆虫類	ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
昆虫類	ヤンマ科	オオルリボシヤンマ	留意	
昆虫類	エゾトンボ科	ハネビロエゾトンボ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類
昆虫類	エゾトンボ科	エゾトンボ	絶滅危惧Ⅱ類	
昆虫類	アメンボ科	エサキアメンボ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
昆虫類	ヨコバイ科	スナヨコバイ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧

昆虫類	イトアメンボ科	イトアメンボ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類
昆虫類	イトアメンボ科	オキナワイトアメンボ	準絶滅危惧種	
昆虫類	イトアメンボ科	ヒメイトアメンボ	準絶滅危惧	
昆虫類	セミ科	ハルゼミ	絶滅危惧ⅠB類	
昆虫類	セミ科	アカエゾゼミ	準絶滅危惧	
昆虫類	セミ科	エゾゼミ	準絶滅危惧	
昆虫類	セミ科	キュウシュウエゾゼミ	準絶滅危惧	
昆虫類	セミ科	コエゾゼミ	準絶滅危惧	
昆虫類	ミズムシ科	オオミズムシ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
昆虫類	ミズムシ科	ホツケミズムシ		準絶滅危惧
昆虫類	ドロバチモドキ科	キアシハナダカバチモドキ		絶滅危惧Ⅱ類

表6 その他の無脊椎動物の整理

区分	科名	希少野生生物種	県版レッドリスト	環境省レッドリスト 2020
その他無脊椎動物	スナガニ科	シオマネキ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類
その他無脊椎動物	スナガニ科	ハクセンシオマネキ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
その他無脊椎動物	ムシオイガイ科	クチキレムシオイ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅰ類
その他無脊椎動物	ムシオイガイ科	アツブタムシオイ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類
その他無脊椎動物	ムシオイガイ科	トウゲムシオイ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類
その他無脊椎動物	ムシオイガイ科	アナムシオイ		絶滅危惧ⅠA類
その他無脊椎動物	オナジマイマイ科	モリサキオオベソマイマイ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅰ類
その他無脊椎動物	オナジマイマイ科	ケショウマイマイ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅰ類
その他無脊椎動物	オナジマイマイ科	ミヤマオオベソマイマイ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
その他無脊椎動物	カワザンショウガイ科	イヨカワザンショウ		準絶滅危惧
その他無脊椎動物	カワザンショウガイ科	クリイロカワザンショウ		準絶滅危惧
その他無脊椎動物	カワザンショウガイ科	ツブカワザンショウ		準絶滅危惧
その他無脊椎動物	カワザンショウガイ科	ヒナタムシヤドリカワザンショウ		準絶滅危惧
その他無脊椎動物	カワザンショウガイ科	ヨシダカワザンショウ		準絶滅危惧
その他無脊椎動物	オオミミガイ科	クリイロコミミガイ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅱ類
その他無脊椎動物	ニッポンマイマイ科	ツルギサンマイマイ		絶滅危惧Ⅱ類
その他無脊椎動物	マルダレガイ科	シオヤガイ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
その他無脊椎動物	マルダレガイ科	スダレハマグリ		準絶滅危惧
その他無脊椎動物	フトヘナタリ科	カワアイ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
その他無脊椎動物	フトヘナタリ科	フトヘナタリ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
その他無脊椎動物	フトヘナタリ科	ヘナタリ	準絶滅危惧	準絶滅危惧

その他無脊椎動物	ウミニナ科	イボウミニナ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
その他無脊椎動物	アマオブネガイ科	ヒロクチカノコ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
その他無脊椎動物	ハナモグリガイ科	ハナグモリガイ		絶滅危惧Ⅱ類
その他無脊椎動物	リギリハギガイ科	ヒナノズキン		絶滅危惧Ⅰ類
その他無脊椎動物	フジノハナガイ科	フジノハナガイ		準絶滅危惧
その他無脊椎動物	ミドリイシ科	エダミドリイシ	準絶滅危惧	

表7 維管束植物の整理

区分	科名	希少野生生物種	県版レッドリスト	環境省レッドリスト2020
維管束植物	マツ科	シコクシラベ	準絶滅危惧	
維管束植物	ウマノスズクサ科	ナンカイアオイ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
維管束植物	スイレン科	ジュンサイ	絶滅危惧ⅠA類	
維管束植物	スイレン科	オグラコウホネ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類
維管束植物	スイレン科	サイコクヒメコウホネ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
維管束植物	ボタン科	ヤマシャクヤク	準絶滅危惧	準絶滅危惧
維管束植物	ヒユ科	ハママツナ	準絶滅危惧	
維管束植物	タデ科	サイコクヌカボ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅱ類
維管束植物	イソマツ科	ハマサジ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
維管束植物	アオイ科	ハマボウ	準絶滅危惧	
維管束植物	ツツジ科	ハクサンシャクナゲ	絶滅危惧ⅠA類	
維管束植物	ツツジ科	アケボノツツジ	準絶滅危惧	
維管束植物	ツツジ科	コメツツジ	準絶滅危惧	
維管束植物	ツツジ科	ツルギミツバツツジ	準絶滅危惧	
維管束植物	ヤッコソウ科	ヤッコソウ	絶滅危惧ⅠB類	
維管束植物	アジサイ科	キレンゲショウマ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅱ類
維管束植物	ベンケイソウ科	アズマツメクサ	絶滅危惧ⅠA類	準絶滅危惧
維管束植物	バラ科	カワラサイコ	絶滅危惧ⅠB類	
維管束植物	バラ科	ツクシイバラ	絶滅危惧Ⅱ類	
維管束植物	マメ科	イヌハギ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類
維管束植物	ニシキギ科	ヒゼンマユミ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧ⅠB類
維管束植物	セリ科	オニシャク	絶滅危惧ⅠA類	
維管束植物	セリ科	ボタンボウフウ	絶滅危惧ⅠA類	
維管束植物	キョウチクトウ科	スズサイコ	絶滅危惧ⅠA類	準絶滅危惧
維管束植物	キョウチクトウ科	インダテクサタチバナ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
維管束植物	ヒルガオ科	ハマネナシカズラ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類



維管束植物	ミツガシワ科	アサザ	絶滅危惧ⅠA類	準絶滅危惧
維管束植物	シソ科	コナミキ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅱ類
維管束植物	シソ科	ナミキソウ	絶滅危惧ⅠA類	
維管束植物	シソ科	ビロードムラサキ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅱ類
維管束植物	シソ科	ミゾコウジュ	絶滅危惧ⅠB類	準絶滅危惧
維管束植物	オオバコ科	オオアブノメ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅱ類
維管束植物	モクセイ科	ナタオレノキ	絶滅危惧ⅠB類	
維管束植物	タヌキモ科	ノタヌキモ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅱ類
維管束植物	キキョウ科	ナガバシャジン	絶滅危惧Ⅱ類	
維管束植物	キク科	モリアザミ	絶滅危惧ⅠA類	
維管束植物	キク科	ニセツクシアザミ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠB類
維管束植物	キク科	フジバカマ	絶滅危惧ⅠB類	準絶滅危惧
維管束植物	キク科	イワバノギク	絶滅危惧Ⅱ類	
維管束植物	キク科	タイキンギク	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
維管束植物	キク科	ハマニガナ	絶滅危惧Ⅱ類	
維管束植物	キク科	フクド	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
維管束植物	キク科	ウラギク	準絶滅危惧	準絶滅危惧
維管束植物	キク科	シオギク	準絶滅危惧	
維管束植物	キク科	ナカガワノギク	準絶滅危惧	準絶滅危惧
維管束植物	トチカガミ科	オオウミヒルモ	絶滅危惧ⅠA類	
維管束植物	トチカガミ科	ミズオオバコ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
維管束植物	シバナ科	シバナ	絶滅危惧ⅠB類	準絶滅危惧
維管束植物	ヒルムシロ科	コバノヒルムシロ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅱ類
維管束植物	ヒルムシロ科	リュウノヒゲモ	絶滅危惧ⅠB類	準絶滅危惧
維管束植物	アマモ科	コアマモ	準絶滅危惧	
維管束植物	カヤツリグサ科	オオクグ	絶滅危惧ⅠA類	準絶滅危惧
維管束植物	カヤツリグサ科	シズイ	絶滅危惧ⅠA類	
維管束植物	カヤツリグサ科	ツクシナルコ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧ⅠB類
維管束植物	カヤツリグサ科	ワタリスゲ	絶滅危惧ⅠA類	
維管束植物	カヤツリグサ科	キシウナキリスゲ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類
維管束植物	カヤツリグサ科	ナガボテンツキ	絶滅危惧ⅠB類	
維管束植物	カヤツリグサ科	ハタベカンガレイ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類
維管束植物	カヤツリグサ科	イセウキヤガラ	絶滅危惧Ⅱ類	
維管束植物	カヤツリグサ科	ウマスゲ	絶滅危惧Ⅱ類	
維管束植物	カヤツリグサ科	ビロードテンツキ	絶滅危惧Ⅱ類	

維管束植物	カヤツリグサ科	オタルスゲ	絶滅危惧Ⅱ類	
維管束植物	イネ科	トキワススキ	絶滅危惧ⅠＢ類	
維管束植物	イネ科	ウキシバ	絶滅危惧Ⅱ類	
維管束植物	ミクリ科	ミクリ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
維管束植物	ミクリ科	ナガエミクリ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
維管束植物	ミズアオイ科	ミズアオイ	絶滅危惧ⅠＢ類	準絶滅危惧
維管束植物	ユリ科	ササユリ	絶滅危惧ⅠＡ類	
維管束植物	ユリ科	ジンリョウユリ	絶滅危惧ⅠＡ類	絶滅危惧ⅠＢ類
維管束植物	ユリ科	タキュリ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
維管束植物	ラン科	アキザキヤツシロラン	準絶滅危惧	
維管束植物	ラン科	シラン	準絶滅危惧	準絶滅危惧
維管束植物	シジャクモ科	シラタマモ		絶滅危惧Ⅰ類

表8 絶滅危惧種以外で当リストに掲載している生物の整理

区分	科名	生物種等	備考
哺乳類	ヤマネ科	ヤマネ	天然記念物
哺乳類	ヒナコウモリ科	モモジロコウモリ	
哺乳類	ヒナコウモリ科	ユビナガコウモリ	
鳥類	-	カモ類	
鳥類	-	シギ類	
鳥類	-	チドリ類	
昆虫類	アゲハチョウ科	ウスバアゲハ	
昆虫類	-	ヒョウモンチョウ類	
昆虫類	シジミチョウ科	キリシマミドリシジミ	
昆虫類	-	ミドリシジミ類	
昆虫類	タマムシ上科	タマムシ	
昆虫類	ラクダムシ科	ラクダムシ	
昆虫類	キスジラクダムシ科	ニシキスジラクダムシ	
昆虫類	-	草原性の昆虫	
昆虫類	-	洞窟性・地下浅層性の甲虫類	
その他無脊椎動物	ベンケイガニ科	ウモレベンケイガニ	
その他無脊椎動物	ベンケイガニ科	クシテガニ	
その他無脊椎動物	ベンケイガニ科	フジテガニ	
その他無脊椎動物	マメガニ亜科	ウモレマメガニ	
その他無脊椎動物	モクズガニ科	マメアカイソガニ	

その他無脊椎動物	カクレガニ亜科	フタハピンノ	
その他無脊椎動物	スメアゴル科	タナゴジマスメアゴル	
その他無脊椎動物	-	外洋性の二枚貝類	
その他無脊椎動物	スナホリガニ科	ハマスナホリガニ	
維管束植物	ヒノキ科	アスナロ	
維管束植物	マツ科	ウラジロモミ	
維管束植物	マツ科	クロマツ	
維管束植物	イチイ科	イチイ	
維管束植物	モクレン科	オガタマノキ	
維管束植物	ブナ科	アカガシ	
維管束植物	ブナ科	ウバメガシ	
維管束植物	ブナ科	ブナ	
維管束植物	ヒユ科	オカヒジキ	
維管束植物	オトギリソウ科	タカネオトギリ	
維管束植物	ホルトノキ科	ホルトノキ	
維管束植物	スミレ科	オオタチツボスミレ	
維管束植物	ヤナギ科	ジャヤナギ	
維管束植物	ツツジ科	カインアンサラサドウダン	
維管束植物	ツツジ科	キシツツジ	
維管束植物	サクラソウ科	ハマボウス	
維管束植物	バラ科	バクチノキ	
維管束植物	バラ科	ミヤマザクラ	
維管束植物	バラ科	ハチジョウイチゴ	
維管束植物	マメ科	ハマエンドウ	
維管束植物	グミ科	アキグミ	
維管束植物	ヒシ科	ヒシ	
維管束植物	セリ科	ハマウド	
維管束植物	セリ科	ハマボウフウ	
維管束植物	リンドウ科	リンドウ	
維管束植物	シソ科	ハマゴウ	
維管束植物	キキョウ科	ハクサンシャジン	
維管束植物	レンプクソウ科	ゴマギ	
維管束植物	キク科	ハマアザミ	
維管束植物	アマモ科	アマモ	
維管束植物	カヤツリグサ科	カンガレイ	

維管束植物	カヤツリグサ科	コウボウシバ	
維管束植物	カヤツリグサ科	コウボウムギ	
維管束植物	カヤツリグサ科	ハタガヤ	
維管束植物	イネ科	アイアシ	
維管束植物	イネ科	オニシバ	
維管束植物	イネ科	ケカモノハシ	
維管束植物	イネ科	ハマエノコロ	
維管束植物	イネ科	ミヤマクマザサ	
維管束植物	-	ミクリ類	
維管束植物	-	コウホネ類	
維管束植物	-	塩田地区の水生植物	